森・川・海をつなぐ、水を守る植林活動

～平成２６年度老部川流域植樹事業～

６月30日、東通村緑化推進委員会と東通村水産振興推進協議会の共催により、老部川上流にある入込山国有林で植樹祭が執り行われました。

豊かな漁場を支える豊かな森と清澄な水を後世に引き継いでゆくため、村内９漁協と下北森林管理署・東通村森林組合などの関係者が汗を流しました。

植樹された老部川の下流部にはサクラマスのふ化場があり、毎年多くの稚魚や幼魚が放流されています。村が推し進めるつくり育てる漁業のため、海だけではなく、森林の保全活動も重要な役割を果たしています。

今回植樹されたのは記念植樹のオオヤマザクラが18本と、ブナやヤマモミジなどが合わせて500本。いずれも森の土壌を肥やし、養分のある水を育む効果が期待される落葉広葉樹です。

両会の会長でもある越善村長は「このような活動を続けることが必ずや大きな効果になると信じている。」と期待を寄せました。

石や切り株とも格闘しながら植樹された皆さん

記念植樹をする越善会長

漁獲量の増大を目指しサクラマス稚魚１０万尾放流

～サクラマス稚魚放流式～

７月８日（火）、村水産振興推進協議会（越善靖夫会長）主催により、老部川内水面保護水域においてサクラマス稚魚放流式が行われ、平均尾叉長6.3ｃｍ、体重3.5ｇの稚魚6万尾が村内漁業協同組合長・むつ水産事務所・東北電力・東京電力など関係者約50名の手により放流されました。

今回の放流地点は、６月30日に関係者が518本の植樹をした地点の下流にあたります。

サクラマスの稚魚は小老部川と野牛川にも既に各2万尾を放流しており、今期は合計で10万尾の放流を実施しました。

今年で17回目となるこの放流事業はサクラマス漁獲量の増大を目的に行っている事業であり、村としても「つくり育てる漁業」の重要な魚種として、今後も資源の増大を図っていきたいと考えています。

関係者による放流

放流されたサクラマス稚魚（当日の水中写真）